

生徒が伸びる職場体験学習を

【小学校・中学校・高等学校等におけるキャリア発達と職場体験等の関連(例)】 ★読本使用場面例

小学校	中学校	高等学校
キャリア発達段階		
進路の探索・選択にかかる 基盤形成の時期	現実的探索と暫定的選択の 時期	現実的探索・試行と社会的 移行準備の時期
体験的活動(例)		
<ul style="list-style-type: none"> ★地域の探索 ★家族や身近な人の仕事調べ ★見学 <ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー ★商店街での職場見学 <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の体験入学 	<ul style="list-style-type: none"> ★家族や身近な人の職業 聞き取り調査 ★連続した5日間の職場体験 ★子ども参観日 (家族や身近な人の仕事調べ) ★職場の人と行動をともにする ジョブシャドウイング ・上級学校体験入学 	<ul style="list-style-type: none"> ★インターンシップ (事業所、大学、行政、研究所等 における就業体験) ★学校での学びと職場実習を 組み合わせて行う デュアルシステム <ul style="list-style-type: none"> ・上級学校の体験授業 ★企業訪問、見学

出典：文部科学省
「職場体験ガイド」
平成17年を参考に作成

3年間を見通した事前学習・事後学習の工夫・充実

はじめに

キャリア教育の効果的な導入のために、
小学校での取組を把握しよう！

■ 校区の小中学校からの情報収集、1年生からの聞き取りなど

小学校での活動例

- 1/2成人式を開こう ～大人になるっていいね～ <4年>
- 写真展から社会をのぞこう ～仕事の意味を探ろう～ <5年>
- マイグッドライフ ～夢や希望をもち、努力すること～ <6年>



事前学習 例) 中学校1年生

将来の夢や職業、働くことなど、自分の生き方について考える
取組内容例

- 自分の生き方を考えよう
 - ・職業レディネステストなどを通した自己の興味・関心の理解の深化
 - ・職業人講話(保護者や地域の人々)
- 職業について考えよう
 - ・職業調べ
 - ・家族に「働くこと」についてインタビュー

Point

具体的な活動を通して、身近な人々の職業や生き方に触れ、自分の将来や仕事を考えることができるようにすることが重要です。

職場体験活動 例) 中学校2年生

保護者や体験先と連携し、生徒をしっかりと見守り、かかわろう

仕事内容例(販売業)と生徒の変容

緊張の
1日目

- あいさつ、自己紹介、社内見学
- 緊張、不安、意欲

仕事を覚える
2日目

- 品出し、清掃、接客、レジ袋詰め
- 仕事の流れが分かる
- 周囲の大人の立場等が理解できる

仕事に慣れる
3日目

- ポップの作成、販売、店内放送
- 分からないことが聞けるようになる
- 自分から進んで行動し、役割を果たすことができる

創意工夫の
4日目

- つまずき、失敗、新たな発見

感動の
5日目

- 体験先の思いを踏まえた主体的な活動
- 自分や大人を客観的に見つめる
- 達成感を感じる



Point

保護者や体験先と連携し、生徒をしっかりと見守り、かかわることが重要です。

そのためには、

体験先の方々に趣旨や意義を伝え、生徒への接し方、体験のポイントなど、共通理解と情報共有が肝要です。教師は、体験先を訪問し、生徒の変化を観察し、不安なことや困ったこと等を聞くなど、見守り、励ますことが大切です。

充実した職場体験活動のために

職場体験活動を一過性のイベントにすることなく、また、あいさつ・マナー講習、発表会等の直前の指導・直後の指導にとどまらず、将来の夢や職業、働くことなど、自分の生き方

について考えることができるよう、キャリア発達の支援の視点から、3年間を見通して、系統的に事前学習・事後学習を実施していくことが重要です。

成果(生徒の感想から)

体験を通して、私は仕事が丁寧なことに自信を持ちました。反面、行動が遅いということも分かり、今後少しずつ直していきたいです。いつかは医療関係の仕事に就きたいと思いました。(体験先：病院)

⇒ 自己理解の深まり

あいさつや返事は人と人とのつながりの始まりです。大型スーパーでの職場体験で、ぼくは、特にあいさつや人の立場に立って考えることの大切さを学ぶことができました。(体験先：量販店)

⇒ 人間関係の深まり

職場で働く人たちの真剣さを見て、「すごい」「カッコいい」と思いました。相手に役立つ、自分に納めできる品物作りにひたむきに取り組む生き方に感激しました。(体験先：手作り家具製造所)

⇒ 生活環境への肯定的な認識の深まり

改めて、仕事の大変さや厳しさが分かりました。そして仕事をすることが自分の喜びになることに気付くことができました。これから、自分に与えられた仕事に一生懸命取り組みたいと思います。(体験先：菓子製造販売店)

⇒ 勤労観・職業観の深まり

人のかかわり、社会の厳しさを改めて感じました。自分の就きたい職業を見つけ、それを実現するためには、勉強をしっかりとやること、自分の行動に責任を持つことが大切だと感じました。(体験先：美容院)

⇒ 生活や学習の基盤づくり

直後の指導 例) 中学校2年生

職場体験活動を振り返り、その意義を考え、学びを共有する

取組内容例

- 職場体験ノート、記録等のまとめ
- 生徒・保護者・体験先へのアンケート等による多様な評価
- 礼状の作成と事後訪問
- 職場体験報告発表会

! Point

体験から学んだことを文章にまとめたり、発表し合ったりすることで、一人一人に働くことや学ぶことの意義を考えさせるとともに、体験や学びを生徒間で共有化することが大切です。



キャリア・パスポートにつづりましょう!

事後学習 例) 中学校3年生

職場体験活動の経験をもとに学習意欲を高め、将来の進路に向けての主体的な学習を進めながら、自分の進路を考え選択していく

取組内容例

- 適性や関心などを生かして進路を考えよう
 - ・中学校卒業後の進路の選択・決定
 - ・職業生活を考えた将来設計
- 主体的な進路選択への支援

! Point

自分なりの将来像を実現するために何をすべきかなど、職場体験活動での学びを自分の将来に向けての学習の意欲付けや進路決定に生かしていくことが重要です。

総合的な学習の時間を生かそう

○総合的な学習の時間における探究的な学習の一環として、職場体験活動を位置付けることは、3年間を見通した系統的・発展的なキャリア教育実践の有効な方策のひとつです。

○生徒が自ら職業や自己の将来にかかわる課題を設定し、自らの力で解決に取り組み、その結果として生徒一人一人が自己の生き方を真剣に考える学習活動が展開されることが求められます。



3年間を見通したうえでの工夫が大切なんだ!

職場体験充実のための方策

〔各学校の職場体験のねらい(例)〕

生徒

- 人と出会い・ふれあいを大切にしよう
- 社会(仕事・職業等)のよさこびや厳しさを実感しよう。
- 新しい自分を発見しよう。
- 将来について考えよう。
- 自ら考え学び、行動しよう。
- 地域について考えよう。等

体験先・保護者

- 子どもたちを見つめ直すきっかけになります。
- 子どもたちの職業への関心を高めることができます。
- 子どもたちとのコミュニケーションが図りやすくなります。
- 子どもたちが地域社会を知り、関心を高めるきっかけになります。
- 地域でのコミュニケーションが一層高まります。

事前指導から事後指導への展開

- ①職場体験実施計画の基本
- ②職場体験実施に当たっての組織
- ③職場体験先の確保
- ④事前指導・事後指導の方策
- ⑤事前指導・事後指導の効果

文部科学省「職場体験ガイド」平成17年を参考に作成

〔職場体験の運営にかかわるポイント〕

実施学年

- ▶指導のねらいを明確にし、生徒の発達の段階、年間計画とのバランス等を考慮に入れて調整する。

実施時期

- ▶ねらいに適した時期、年間指導計画とのバランス、特別活動・総合的な学習の時間等との関連、体験先・地域への配慮等を考慮に入れて調整する。

実施期間

- ▶体験の質を高め、体験先・地域へ配慮し、調整する。

〔体験先、保護者等との連携／体験先への依頼・確保の例〕

実施校

実施校が主体となり、地域の商工会議所・商工会、商店会や地元経済団体、各事業所等に連絡を入れ、受入の依頼・確保・連絡調整を行う。

- 実践上の利点 体験先・内容の安全性の確保がしやすい地域や体験先の組織等の負担が軽減される
- 実践上の課題 生徒の希望がすべてかなうとは限らない教職員の体制(連絡・調整等)

保護者

PTAや保護者会、または保護者個人が、体験先を確保し紹介する。父親の会等が設置され、そこが主体となって事業所等の確保を行っている例もある。

- 実践上の利点 体験先・内容の安全性の確保がしやすい保護者とのコミュニケーション強化が図られる
- 実践上の課題 生徒の希望がすべてかなうとは限らない保護者からの積極的な支援が必要

地域学校協働活動

コミュニティ・スクールの仕組みを使い、地域と学校が目標を共有し、一体となって、役割分担しながら連携・協働して取組を進めていく。地域学校協働活動推進員が窓口となり、地域学校協働本部で、受入事業所等を確保し各学校に紹介している例もある。

- 実践上の利点 体験先・内容の安全性の確保がしやすい職場体験が円滑に実施できる
- 実践上の課題 生徒の希望がすべてかなうとは限らない

生徒

生徒自身の関心や考えにより、日常生活経験や保護者、地域の方の情報等をたよりに、自分の希望にあった体験先を開拓する。その受入依頼等についても電話、訪問、手紙等の手段により自らの手で行う。

- 実践上の利点 職場体験への意欲が向上する職場体験の事前指導が充実する体験先確保への保護者の支援が得やすい社会性や人間関係形成能力育成への手立て
- 実践上の課題 生徒の希望による職種への偏り指導内容・方法の開発保護者の職場体験に対する趣旨の理解と、協力が必要

〔受入れ事業所のメリット〕

- 教育への参画を通しての社会貢献
- 地域、学校との交流の深化
- 将来に向けた産業界を担う人材育成
- 指導に当たる社員の意識の向上
- 職場の活性化
- 地域における事業所の認知度の向上
- 中学生や学校教育への理解

「ふるさと鳥取企業読本」活用実践例

《第1学年》 自己の在り方やよりよい生き方を考えさせる

私たちの未来へ

ねらい

職場訪問や職場体験活動を通して、働くことの意義や職業への理解を深め、自己の在り方やより良い生き方を考えることができる。

- 様々な職業について、情報を収集し、感じ取ったことや考えを分かりやすくまとめて表現することができる。
- 職場体験活動を通して地域の産業や勤労の価値などについて体感するとともに、将来の自分の生き方について考えを深めることができる。
- 職場体験活動を通して、マナーや礼儀を知るとともに、自己の将来に向けて自分なりの行動をとることができる。

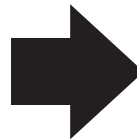
本実践とキャリア教育

職場体験活動を中心とした本実践は、中学校におけるキャリア教育の重要な部分を担うものです。これまでも行われていた職場体験活動を、キャリア教育全体の中でとらえ直し、その位置付けを明確にすることが大切です。

また、各教科等との関連や地域・企業との連携を図りながら、生徒一人一人が将来の自分の生き方について希望をもって考えることができ、探究的な学習となるように単元を構成していくことが大切です。

全体構想

主な学習活動(総時数38時間)	時数
○ 課題をとらえ、単元計画を立てる。	1
○ 「働く」という視点から今の自分を見つける。 (道徳1、特活1)	3
○ 職業について調査し情報収集する。 (職業人の講話・調査)	8
○ 職業体験活動での課題や活動のねらいを明らかにする。(特活1) (課題把握、体験場所決定等) (本時1 / 4)	4
○ 職場体験活動	6
○ 体験の振り返りと情報交換をする。	12
○ 新たな課題を設定し追究する。	4
○ 自分の未来設計図を描く	4



教科等との関連

- <国 語> 「話すこと・聞くこと」
- <道 徳> 「勤労・奉仕」
「役割と責任」
「個性の伸長」
「礼儀」
- <特別活動> ・学校行事
「職場体験活動」
・学級活動
「自分を知る」
「働くことの意義」

ふるさと鳥取企業読本が活用できます!!



地域・家庭・企業等との連携

家庭への調査及び協力依頼
地域企業・事業所等への協力依頼

《本時のねらい》

自分の興味や関心のある職種を選択し、職場体験活動の課題や見通しをもつことができる。

《展開》(13/38時間)

過程	学習活動と内容	指導上の配慮事項と評価 配慮事項(○) キャリア教育の視点から見て特に重要なこと(◎) 評価(☆)
導入	<p>1 前時までの活動を振り返り、職場体験活動への意欲をもつ。 ・本時の活動を確認する。</p> <p>職場体験活動の課題や見通しをもとう。</p>	<p>○ 写真やカードなどから、前時の講話の内容や、職業調べ、自分の夢についての話を振り返ることができるようにする。</p> <p>○ 単元計画や本時の活動について確認する。</p>
	<p>2 職業や地域の事業所等について確認する。 ・調べた職業や事業所等の仕事の内容について確認する。</p>	<p>◎ 自分たちで調べた職業や企業だけでなく、地域にある様々な事業所等にも関心が向くよう、写真やパンフレット等も準備しておく。</p>
	<p>3 職場体験活動のねらいや課題を把握する。 ・前時までの活動で課題となっていたことを踏まえ、自分が職場体験活動で学習したいことや解決したいことを整理する。</p>	<p>◎ 自分の夢や希望と関連させ、何のために、何を学びたいか、カード整理の方法や小グループでの意見交換などにより、自分の目的や課題をはっきりさせる。</p>
	<p>4 体験活動の場所を決定する。 ・職業調べ、自分の興味や課題をもとに、職種を考え、体験場所を決定する。</p>	<p>◎ 特別活動・学級活動における「働く意義を考える」の学習内容を学習カードなどにより振り返り、自分の考えを整理する上での参考にさせる。</p> <p>◎ 自分の課題、夢や適性を考え、友達の意見などを参考にしながら、体験場所を決定できるようにする。その際、特別活動・学級活動における「自分を知る」の学習でまとめた「自分カード」なども参考にさせる。</p>
	<p>5 職場体験活動に必要な準備について話し合う。 ・事前訪問、礼儀、安全対策、まとめ方等</p>	<p>○ 活動に向けた具体的な準備についての見通しと自覚をもたせる。</p>
まとめ	<p>6 本時のまとめをする。 ・それぞれの目的や課題、活動場所の発表 ・準備についての確認</p>	<p>☆ 自分なりに職場体験活動の目的や課題を把握し、これからの見通しをもつことができたか。</p>

実践のポイント

重点化を図った年間指導計画と一人一人の目的意識・課題意識づくりが大切です

職場体験活動を意義あるものとするためには、探究的な学習となるよう、職業や将来についての学習を、年間を通して行うなど、問題の解決や探究活動が意図的、計画的に位置付けられた年間指導計画を作成することが大切です。また、自分の生き方を考えることができるよう、夢や希望とのかかわりを大切にして、一人一人が目的意識や課題意識をもって活動に取り組むことができるようにすることが大切です。

活用できます!!
ふるさと鳥取企業読本が



キャリア教育 参考資料

キャリア教育実践のための手引き・パンフレット

文部科学省及び国立教育政策研究所では、キャリア教育の実践の一層の促進のため、キャリア教育の趣旨の周知と指導内容の充実を図る手引きやパンフレットを作成しています。手引き・パンフレットは文部科学省HP上にも掲載していますので、ご活用ください。

〈小学校〉



小学校手引き
平成22年1月



小学校パンフレット
平成21年3月



パンフレット
「学習意欲の向上を促すキャリア教育」
平成26年3月

〈中学校〉



中学校手引き
平成23年3月



中学校パンフレット
平成21年11月



パンフレット
「キャリア教育を
一歩進める評価」
平成27年3月

〈高等学校〉



高等学校手引き
平成24年2月



高等学校パンフレット
平成22年2月



パンフレット「個々の
キャリア発達を踏まえた
“教師”の働きかけ」
平成28年3月



パンフレット「期待される
教育委員会の役割」
平成23年2月



パンフレット「学校の特色を
生かして実践するキャリア教育」
平成23年11月



パンフレット「今ある教育活動を
生かしたキャリア教育」
平成24年8月

キャリア・パスポート普及・促進のためのパンフレット

国立教育政策研究所は、キャリア・パスポートの普及・促進のため、キャリア・パスポートの趣旨や、自治体における実践事例等を掲載したパンフレットを作成しています。パンフレットは国立教育政策研究所HP上にも掲載していますので、ご活用ください。



パンフレット1
キャリア・パスポートって
何だろう？
平成30年5月



パンフレット2
キャリア・パスポートで小・中・高をつなぐ
～北海道「小中高一貫
ふるさとキャリア教育推進事業」より～
平成30年5月



パンフレット3
キャリア・パスポートで
日々の授業をつなぐ
～秋田わか杉「キャリアノート」
「あきたでドリーム
(AKITA de DREAM)」と
大館ふるさとキャリア教育より～
平成30年5月



パンフレット4
キャリア・パスポートで
「児童生徒理解」につなぐ
～世田谷区立尾山台小学校
「キャリアン・パスポート」より～
平成30年11月



パンフレット5
キャリア・パスポートを
「自己理解」につなぐ
～大分県中学校教育研究会
進路指導・キャリア教育部会
「自分を知らうカード」より～
平成31年3月

国の事業の活用を

土曜学習応援団について

～企業・団体等の出前授業により、特色・魅力ある教育活動を推進～

文部科学省では、平成26年4月より子供の豊かな学びを支えるために、多様な企業・団体・大学等に「土曜学習応援団」に御賛同(御参画)いただき、土曜日をはじめとして、夏休み、冬休み、平日の授業や放課後等の教育活動に出前授業の講師や施設見学の受入等により参加していただくことで特色・魅力のある教育活動を推進。(令和元年7月段階で785団体が賛同)



土曜学習応援団に賛同した
様々な企業・団体・大学等

教育活動への協力依頼

学校・教育委員会
地域の教育団体等



ホームページ等による
応援団の情報提供

土曜学習応援団

* 幼稚園・保育園～高校までを対象、他に、親子での参加も可能
* 土曜日をはじめとして夏休み、冬休み、平日の授業や放課後等を対象

土曜学習応援団が、出前授業等の講師として参加している事例



化学の不思議を伝える
「化学実験教室」



災害に備える力を養う
「防災教室」



地球温暖化を考える
燃料電池を使用した
「発電実験教室」

土曜学習応援団・WEB

* 賛同企業等の一覧や各企業等の取組を
「地域と学校でつくる学びの未来HP」の中の
「企業等による教育プログラム」で紹介
<https://manabi-mirai.mext.go.jp/index.html>



学びの未来

民間企業・団体等による出前授業が活用できます

「土曜学習応援団」となっていますが、プログラムの実施は土曜日に限りません。「土曜学習応援団」は、土曜日をはじめとして、夏休み、冬休み、平日の授業や放課後等に
出前授業や施設見学等を、企業・団体・大学等にご提供いただくことで、特色・魅力ある教育活動を推進しています。





ふるさと鳥取企業読本

発行 鳥取県教育委員会

作成 鳥取県教育委員会事務局小中学校課

令和2年3月

連絡先 鳥取県教育委員会事務局小中学校課

電話 0857-26-7935

ファクシミリ 0857-26-8710

ホームページ <https://www.pref.tottori.lg.jp/shouchuugakkouka/>